

# 水道産業新聞

## 培った技術力で水道界に貢献へ アクエジャ

### 横浜水道OBの起業に注目集まる

横浜水道局OBが起業した横濱アクエジャ(代表取締役|白濱英一・元横浜水道事業管理者)の事業活動が本格化してきた。技術者不足に悩む中小水道事業者へのアドバイスを軸にしたコンサルティングや新技術を駆使した水道関係製品の販売代理店など、長年の水道実務で育んだ技術力と見識で「水道界に恩返し」しつつビジネスチャンスを探索している。



白濱代表取締役

アクエジャの設立は平成21年10月。役員は、横浜水道局理事・水道技術管理者を務めた渡部進氏、高橋成治氏の両氏を加えた3名で構成され、監査役は元同局長の秋山武久氏が務めている。従業員は今年4月1

日現在では月1回、水に関する企画・調査・研究・工事の施工・監理・コンサルティング業務の労



NMRパイプテクターを配備



防錆に加え残塩抑制効果も確認



局内実施設で検証

働者派遣事業に基づくと特定労働者派遣のその他付帯業務も事業内容としている。建設・コンサルティングとして水道及び工業用水道の資格登

録済みで、社内は技術士(土木水道部門3名)、第1種電気主任技術者(1名)、測量士(1名)、水道施設管理技術士(3名)、税理士(1名)の資格者がいる。

企業から、業務の指導を受けるため同OBを採用したため、将来にわたって人材を確保することを念頭に同OBで会社を設立し恒久的に人材を供給してほしいとの要望を受け、決定

この会社には、人材を派遣して水道・メンテナンスや給水配管管理などの業務の受託も行う。今年からコンサルティング業務について、国交省への登録に加え、横浜水道局、神奈川県、川島企業、神奈川県内川城水道企業にも業務登録を行っている。

さらに、ここに来て力を入れているのが、水道水の赤錆による残塩濃度の減少防止に向

けた研鑽とビジネス展開、日本システム企画が開発した「NMRパイプテクター」(別掲記事参照)を用い、配水管内の赤色と残留塩濃度の減少を防止する技術のメカニズムについて横浜水道局と共同研究して解明(同局職員が今秋の都

市で「水道研究発表会」を企画し、新たな水

道コンサルティング業務を展開したい」と実務に精通した水道技術者としての自信を覗かせる。技術者不足が深刻化する中小水道事業者の持つ、欠かせぬノウハウを当社社員は保有しており、その最大の強みを活かして「トータルシステムメンテナンス」の今後の事業展開が注目される。

ここで、管内の水分子が小さな凝集体になり水と電子を連続的に放電させ、赤錆を黒錆に還元するとのこと。更新や更新後の工事と並行して、安定期間内に赤水防止を現地できるという。これらは、水道施設での実績は少ないが、国内では医療機関等の建物内での給水設備、海外でも公共施設の屋内設備などで実績が多いとい

ろ、赤水防止はもとより、赤錆に起因する抑制される残留塩減少の抑制にも効果があることが確認された。横浜水道局は年間100以上の事業を年間100以上の精力に管理更新を実施しており、赤水の懸念が持たれる近、たまた、中小規模の事業体も多くの水道事業体では、管路更新は低減して、1%に満たない所も少なくないが実状は、優先順位は低いが赤水の懸念のある管路は相当数に上る見られ、NMRパイプテクター」の市場シェアが

拡大され、

## 赤水防止に加え残塩維持にも威力

日本システム企画のNMRパイプテクター

### 特定電磁波で赤錆を黒錆に

この「アクエジャ」部に発生した赤錆を特定電磁波によって黒錆に変えることで赤錆の水道「テクター」は、管内への溶出を止める機能を

この防錆装置を用いて

期待される。